

持続可能な循環型社会を目指して～循環研の活動紹介

1. プロローグ

循環技術システム研究分科会（循環研）は、「私達の住む北海道を持続可能な循環型社会とするために、関連技術の現状把握を通してその普及に向けた課題を整理し、社会システムのあり方について提言するとともに、私達一人ひとりの生活様式のあり方について考える」を目標に原則1回/月の札幌エルプラザでの定例会を中心に活動しています。昨年度から「2050年の未来を見越し、現時点での正すべき課題を再認識し、対応策および改善システムを検討する」ことをテーマに研鑽を積んでおります。

2. 雪氷輸送物流システム講演会

5月には(株)ドーコン建築都市部の高松康二技術士(衛生工学部門)により先頃まで実証試験が行われていた北海道⇒本州への雪氷輸送物流システムについて「自然冷気による製氷及び保管・採氷方法に関する検討―雪氷輸送物流システム検討業務における調査・実証試験による」と題して講演していただきました。

北海道の物流は、首都圏から北海道への荷物が満載であるのに対し、北海道から首都圏へ戻る貨物は一時期を除き空荷が目立つ、いわゆる片荷輸送になっています。その高コスト構造の改善を目的とし、

苫小牧東部で製氷⇒フェリーにて首都圏へ輸送⇒オフィスビルでの冷房熱源として利用との一連のシステムの実証試験を垣間見させていただきました。この研究により雪氷輸送物流システムにおける大量の水製造及び保管の可能性が確認でき、実用化へ向けて一歩踏み出しています。

3. エコな活動…

6月は「環境首都札幌宣言市民会議委員」の原瑞穂氏をお招きし、講演をしていただきました。フリーライターとして6大陸60カ国を雑誌などで現地レポートを連載した経験をお持ちの方です。



北海道新聞（朝刊）2008年6月2日の紹介記事



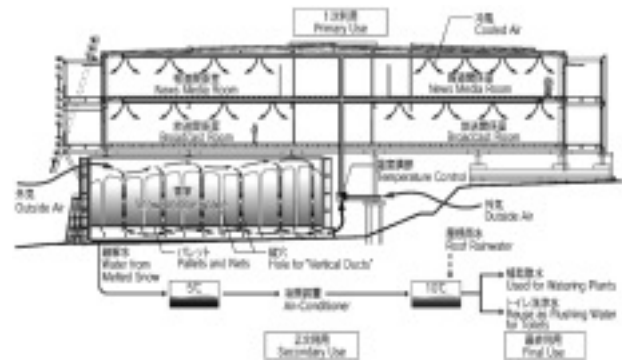
多彩な経験からエコな活動の講演をしていただこうと思っていましたが、テーマの選定を誤ったか当日は反原発の話しになり、会場は微妙な雰囲気になりました。メンバーも忍耐を持って聞いていましたが、意見交換を通してお互いの啓蒙になったのかとは思っています。

4. サマーイベント（大勝負と小勝負）

7月はRS研全体のレク活動として、ばんけいスキー場にてパークゴルフ&ジンギスカンを楽しんで来ました。4分科会同士の対抗戦でしたが、天候も恵まれた中、結果は下表の通りです。優勝はみごと循環研の永瀬座長が獲得しました。

リージョナルステート研究会
サマーイベント パークゴルフ結果発表

ホール	距離(m)	パー	グループ1				グループ2			グループ3			グループ4			
			荒(地域)	対馬(教育)	宮武(観光)	永瀬(循環)	北越(代表)	山田(教育)	成田(幹事)	佐藤(教育)	外(循環)	赤松(教育)	阪(循環)	日浅(観光)	大谷(教育)	
1	55	4	4	3	5	4	4	4	6	9	8	6	5	7	11	
2	42	4	4	6	4	4	4	5	7	6	6	7	6	3	5	7
3	33	3	5	2	3	3	3	9	4	5	5	4	3	3	4	4
4	53	4	5	4	3	4	4	4	12	2	3	2	2	5	4	4
5	56	4	5	7	6	6	6	3	5	5	7	3	8	3	5	5
6	33	3	3	4	4	3	3	5	4	3	5	4	3	5	3	3
7	34	4	3	3	5	4	3	2	5	3	5	5	3	3	4	4
8	25	3	3	4	5	4	4	4	2	2	3	6	3	4	4	4
9	38	4	3	3	3	3	4	4	2	3	7	4	4	4	4	3
1~9小計		33	35	36	38	35	36	42	46	38	50	40	34	39	45	
10	33	3	5	4	2	3	4	3	4	3	3	3	3	6	5	5
11	41	4	2	4	3	2	2	3	4	4	5	6	3	3	3	3
12	39	4	3	7	4	3	5	6	5	2	6	2	4	3	6	6
13	33	3	5	5	3	3	3	4	4	6	5	5	4	3	4	4
14	45	4	2	8	3	5	4	9	6	3	6	6	5	—	3	3
15	52	4	4	4	2	3	4	9	5	4	5	5	3	—	4	4
16	43	4	3	5	4	3	4	4	4	4	5	6	4	3	2	2
17	27	3	4	5	3	4	4	4	5	3	3	2	3	3	5	5
18	36	4	4	4	4	3	4	5	5	4	5	4	6	4	5	5
10~18小計		33	32	46	28	29	34	47	42	33	43	39	35	—	37	
1~18合計		66	67	82	66	64	70	89	88	71	93	79	69	—	82	
順位			3	8	2	1	5	11	10	6	12	7	4	—	8	



国際メディアセンター雪冷房システム
(北海道洞爺湖サミットHPより)

例を交えた「雪を解かさない技術と解かす技術」と題して雪冷房と換気廃熱を利用したロードヒーティングの講演をしていただきました。

「雪を解かさない技術」は雪冷房としてサミット時の国際メディアセンターに利用され、一躍世界中に情報が発信されています。講演では雪の貯留から実施に到るまで、またサミット時に桜を咲かせようと苦労された話を伺い知る事ができました。更に新千歳空港では滑走路に使用される防除雪氷剤による近隣河川のBOD負荷低減のために雪山を冷房に活用し、併せてCO₂削減を図る計画で、実証試験が進められています。北海道にとっては邪魔者扱いされてきた雪氷が貴重な熱源として次々と実用化されています。

「雪を解かす技術」の方は住宅内で発生する換気廃熱をロードヒーティングに利用する試みで、既に実用化されています。豪雪時には若干時間がかかりますが、油・電気・ガスをほとんど使用しないで融雪を可能にするシステムは今後の北海道には有効な利用であると考えられます。関係者の更なる精進を期待するものです。

6. エピローグ

以上毎月毎の活動内容を時系列にて紹介してきました。今年度のテーマである「2050年の未来を見越し、現時点での正すべき課題を再認識し、対応策および改善システムを検討する」点について、今後も様々な観点から研鑽を積み、北海道の発展に少しでも寄与していきたいと思っております。

(文責：循環研事務局 外 朝彦)



パークゴルフで各分科会同士の大勝負！その後、冷たい生ビールとジンギスカンで小勝負♪



5. 雪を解かさない技術と解かす技術

暑い盛りの8月は伊藤組土建(株)技術部の本間弘達氏により、先に行われた洞爺湖サミット時の導入事